

生徒にとって身近なディベート論題

ローマ日本人学校ならではのディベート論題

ローマ日本人学校に勤務して3年目となる年に、中学1年生の国語の授業にディベートを取り入れました。それまでもディベートやパネル・ディベートの実践を積み重ねてきていました。前年度までの授業の様子をビデオに撮り、記録として残してありました。また、今までの反省をもとに新たなルールを設定することにしました。

生徒から出された論題候補は、次の3つです。中学1年生では、生徒にとって身近な話題が論題候補として挙がる傾向があります。いずれも、ローマ日本人学校ならではのテーマです。

- 世界共通語は必要である
- 統一通貨ユーロは必要である
- 少人数学級と40人学級とではどちらがいいか

それぞれの論題候補に対する最初の考えを書きました。

《世界共通語は必要である》

私は、「必要である」と考える。

なぜなら、○旅行などで行ったことのない国に行って、同じように通じる言葉がなければ不便だから。(今の自分の生活を考えると)

○急に病院に入院したりすると、言葉が通じないため、詳しく話すことができない。

○話せると、世界中の人と言葉をかわすことができるのだから、世界中の人と友達になれる。

《統一通貨ユーロは必要である》

私は、「必要ではない」と考える。

なぜなら、○違うお金を急に使うようになると、初めのうちは慣れないため買い物などで不便である。

○今までのお金をずっとかえずに使っていたいと思っている人もいる。

《少人数学級と40人学級とではどちらがよいか》

私は、「少人数学級」がよいと考える。

なぜなら、○テストの順位が出ない。

○友達が少ない分、一人の友達とずっと仲良くできる。

○授業中に、いちいち手を挙げて立って大きい声で発言しなくても目の前に先生がいるから、ためらわずに発言ができる。

○日本にいるときよりも、今のほうが楽しい気がする。

新たに設けたディベートルール

- (1) 互いの立論(根拠の要約)を交換する。
- (2) オーダー(立論担当者・最終弁論担当者)を交換する。
- (3) 立論・オーダー提出後はその後の変更を認めない。
- (4) 反対尋問で1回に限り「指名権」を行使できる。
- (5) 反対尋問では30秒以内に答えられない場合、次の尋問へ移る。
- (6) 反対尋問中に1回1分間にかぎり「作戦タイム」をとることができる。
- (7) ディベート中にチーム内でメモ用紙をまわしてもよい。